

「住民と震災復興計画策定委員会との懇談会」の開催結果

■開催概要

区分	第1回	第2回 (対象:女性・若者)
日時	平成24年5月9日(水) 19:00~21:15	平成24年5月13日(日) 13:30~15:45
場所	かたくりホール	役場 大会議室
参加人数	24名 (男性22名・女性2名)	13名 (男性4名・女性9名)

■主な意見等

◆ 第1回

- 住宅再建のために、役場に手続きに行くと各部署をたらい回しになることが多いので、1箇所ですべての手続きが行えるようにしてもらいたい。
- 融雪溝の設置など、震災を機に雪対策についても復興計画に盛り込んでもらいたい。
- 高齢化によりどこの集落でも水路の維持管理が困難になってきているので、今後の対策を検討してもらいたい。
- 復興計画(案)の基本方針にも「災害に強い道路ネットワークの構築」とあったが、震災で孤立しない道路整備が必要である。
- 今後、高齢化により山間地から中心部に移住を希望する人も出てくることも考えられるので、公営住宅の長期的な整備も検討してもらいたい。
- 栄村は雪が降るから大変であるが、その他は問題がなく、本当に住みやすいところなので、この雪を資源として活用する方法を検討してもらいたい。

◆ 第2回

- 復興には道路などのインフラ整備だけではなく、村民一人ひとりがやる気になる仕組みづくりが必要ではないか。
そのためのキーワードは「教育」である。子どもたちが成長して、「村に暮らしたい」「村を何とかしたい」など、小さいときから村との絆づくりが必要である。
- これから栄村を担っていく子どもたちの意見を復興計画に取り入れるべきである。
- 栄村は雪が降った時のイメージを良くしないと、嫁に来てくれる人もいないのではないか。
- 村内で働いているが、住宅がなく村に住めない者もいる。
- 復興計画を実行していく際は、役場だけではなく、集落毎に特徴を活かした活動に対して支援してはどうか。
- 新規就農者など、新しい人を受け入れる体制が必要である。
- 冬期間は農業だけでなく、商業もお客が少なく、厳しい状況にあるので、雪を活用したイベントなど、冬期間に人が来てくれるような対策を検討してもらいたい。
- 公園の整備など、次世代を担っていく子どもや若者のための対策にも重点を置いてもらいたい。
- 他の地域より優れている栄村の魅力をブランド化することも必要である。